

ミチシルベ

ー逗子・屋敷通りにおける景観デザインー

SITE

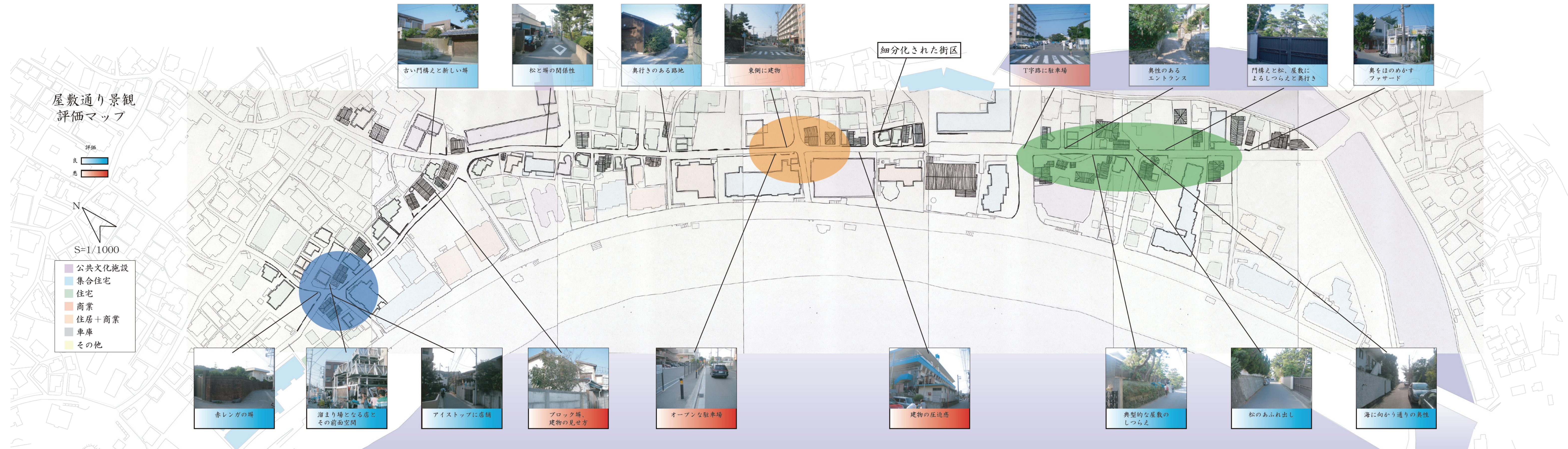
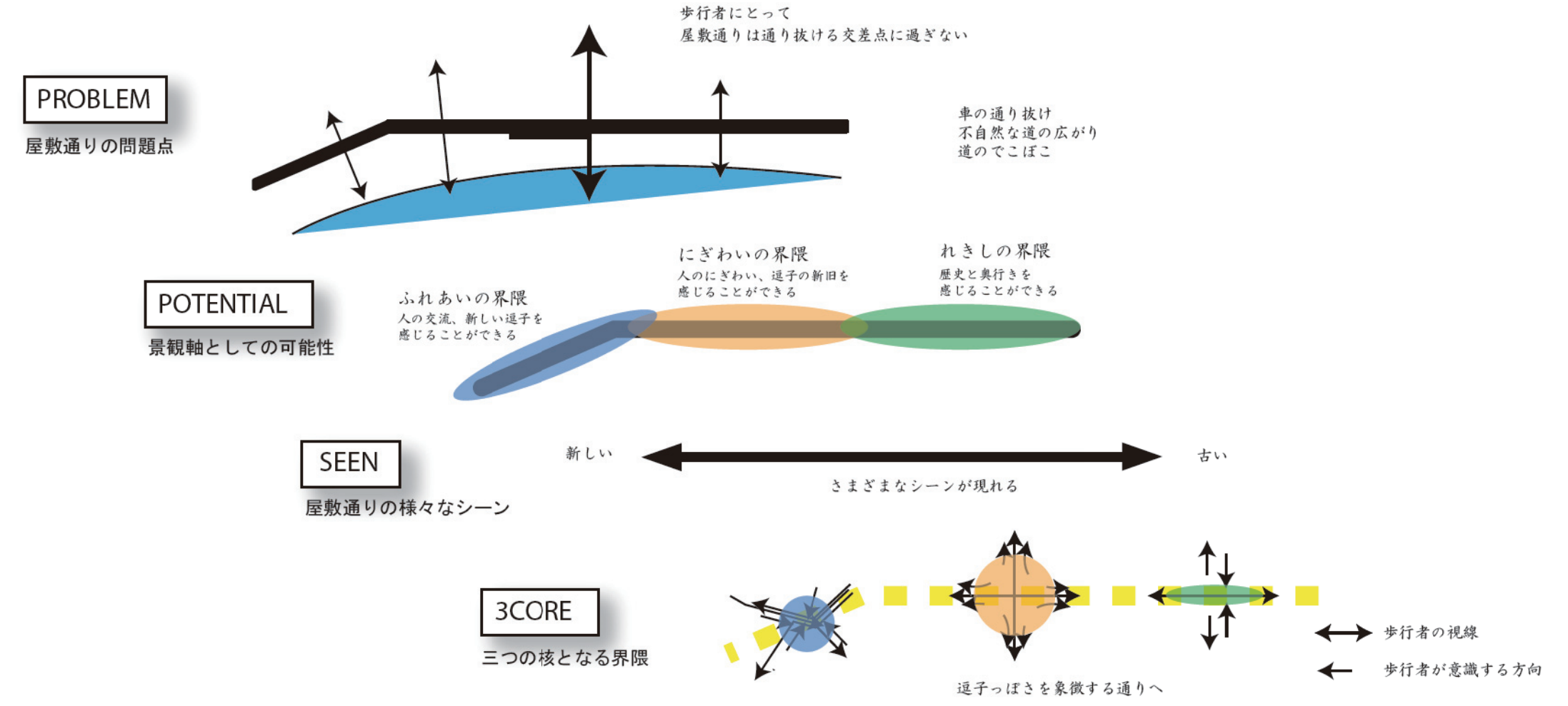
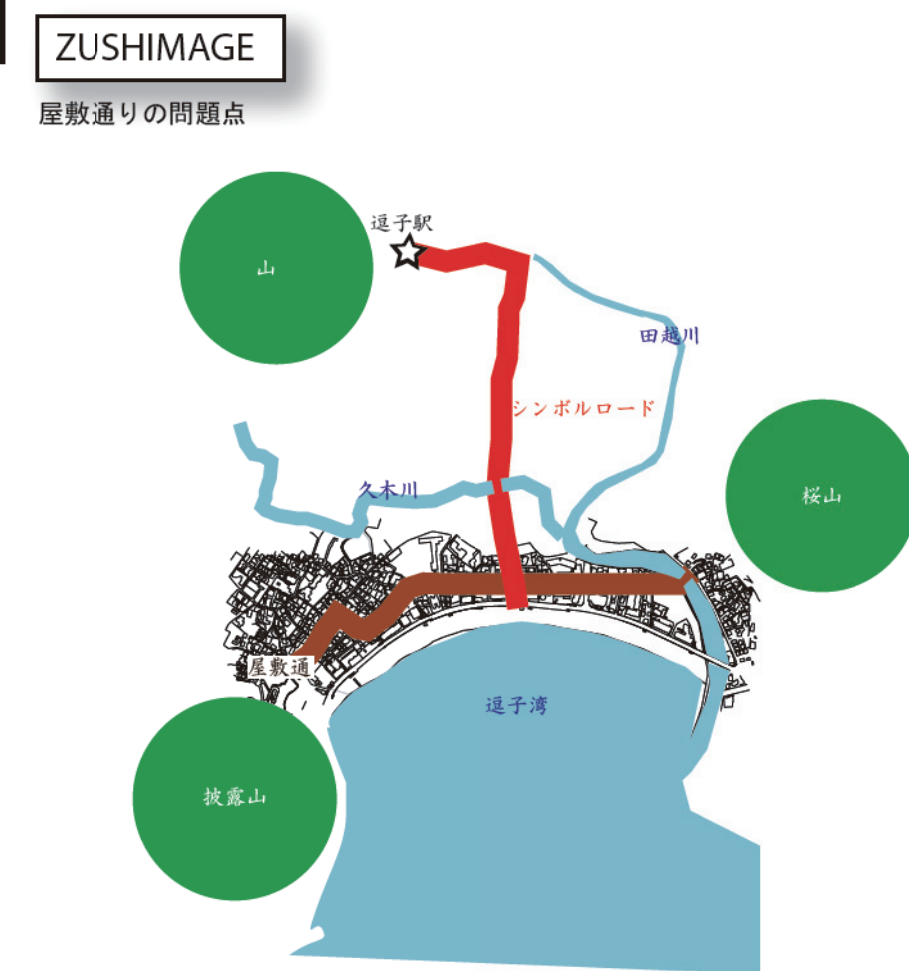
逗子海岸に沿って延びる屋敷通りおよび新宿2丁目の一部を対象とする。
この通りは、逗子市の遠景を望むことができるとともに逗子市の典型的な景観を構成する要素を多く持つ通りである。

CONCEPT

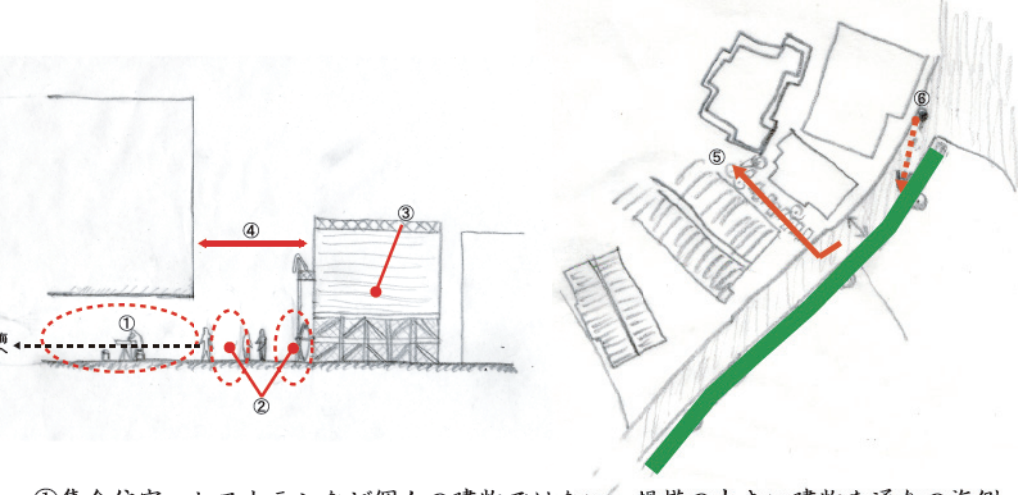
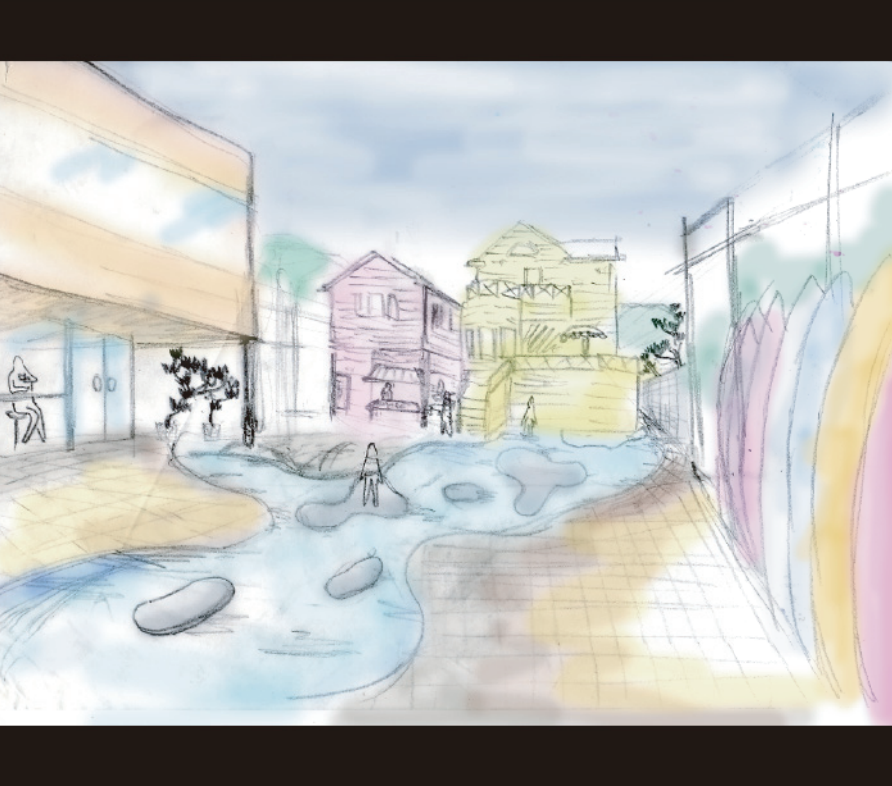
通りの良さは何らかの連続性を保持することで継承される。
新旧の用途の混在化・大規模敷地の細分化が進行する現在、逆にそれらの動きを活かし、美しい逗子の姿を提案する。

PROPOSAL

景観のゾーニングを行い、シーンごとにそれぞれの生活（住民・仮住民・観光客）を垣間見ることのできる空間とする。その結果、そこを通過する人々に通りの強い印象を与える。

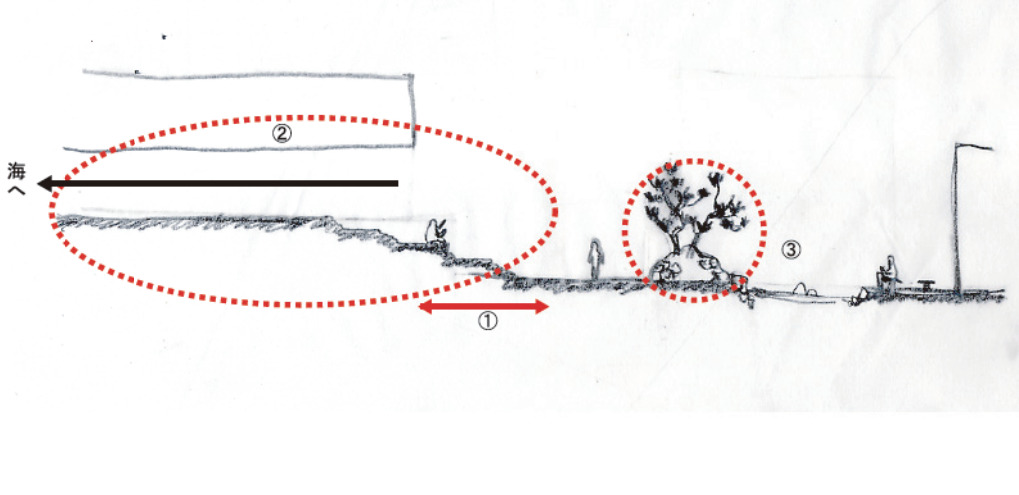
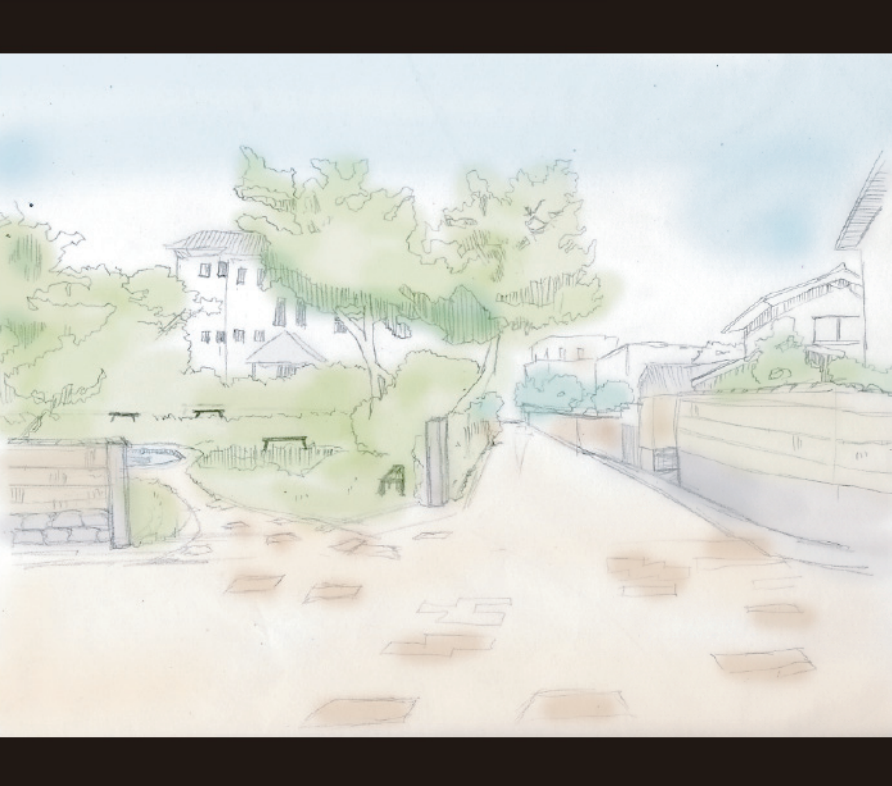


新旧×仲間×水



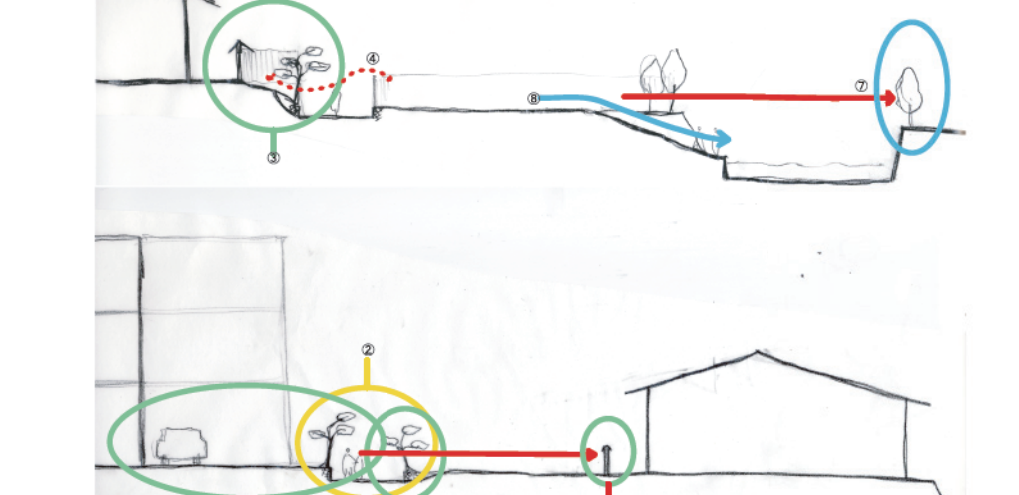
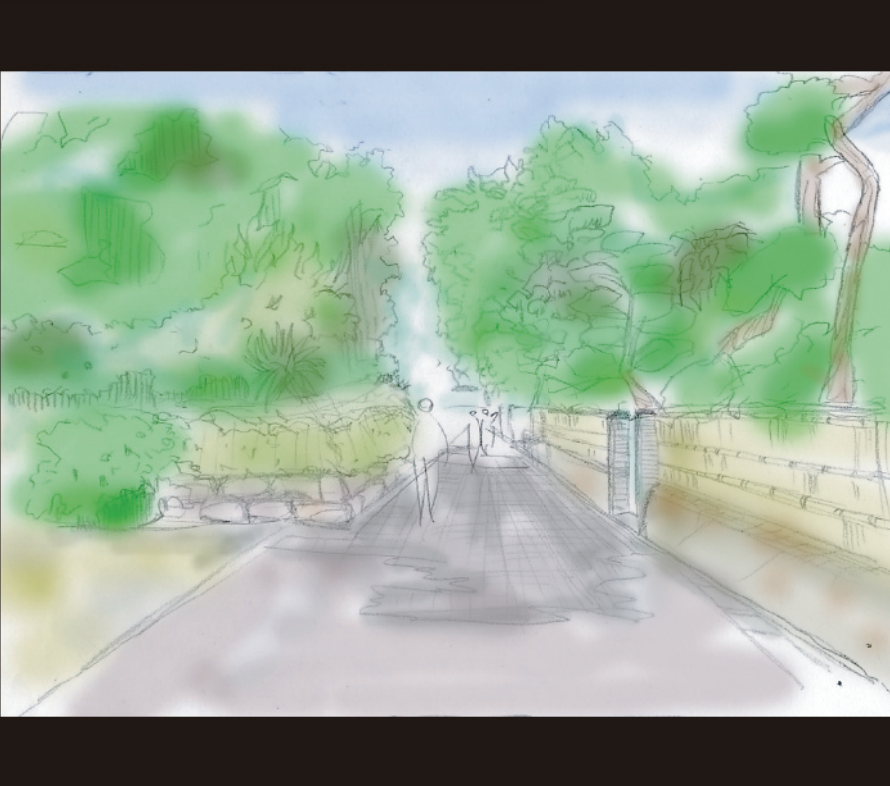
- ①集合住宅、レストランなど個人の建物ではない、規模の大きい建物を通りの海側に建築する
→ 低層部分に公開性の高い施設を入れる。
・なるべく海への視線を確保する。
- ②境界部分について
→ 通りを歩いている、サーフィンをしている人たちの生活を感じられるように塀・植栽など、敷地を囲うことを禁止する。
- ③建築物について
→ 木造、ペンキ仕上の推奨
- ④幅員の狭い道
→ ヒューマンスケールな道の幅員を守る。地元と観光の人、大人と子供それぞれがお互いを身近に感じる。
- ⑤奥の建物へのアクセス
→ 敷地規模の小さいこの地域の特徴的な風景。
- ⑥先を見通せない
→ 先にある空間への期待、推測を促す。

歩く×見る×休む



- ①賑わいを持たせるため、商業施設の通り側のセットバック空間は公園、広場を入れる。
- ②・海へのアクセス、視線の確保
・商業用途を入れる
- ③シンボルロードと屋敷通りの交差点について
・路地の公園化

時代×見え隠れ×DNA



- ①ヒューマンスケールとなるような道路幅員の制限
- ②石垣(盛土)+松による道を包み込むようなデザインの推奨
- ③黒門前のような盛土と植栽によるアプローチの推奨
- ④石垣・松・竹による塀・壁・柵
→ 敷地の内側を感じ取れるような高さや幅の工夫
- ⑤マンションの駐車場を石垣・植栽によって隠す
- ⑥敷地境界の盛土部分の植栽
- ⑦通りから見える敷地境界と庭の植栽及びしつらえ
→ 屋敷通りからの視線を意識した植栽配置
・石垣・松・竹による塀・壁・柵

ふれあいの界隈

にぎわいの界隈

れきしの界隈